

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372400947		
法人名	社会福祉法人 天恵会		
事業所名	グループホームありあけの丘		
所在地	熊本県玉名市天水町部田見448-1		
自己評価作成日	平成22年1月14日	評価結果市町村受理日	平成22年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4372400947&amp;SCD=320">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4372400947&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成22年2月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・当事業所は、小高い山の中腹にあり環境がよく、建物の前が芝生の広場となっているため、散歩コースとしても最適な場所にあります。  
 ・各自ご自宅の延長の住みなれた家でご家族、知人が自由に出入りできる場であり、職員も家族の一員として接しています。  
 ・日々の生活の中で、個々の残存機能の維持及び昔を回想して頂けるような取り組みに努め、笑い笑顔の楽しい関わりを持ち、生きがいのある生活を送っていただくように支援をしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然環境に恵まれ、四季の移ろいを身近に感じながら、日々の暮らしが営まれている。ホーム内はゆったりとした時の流れが感じられ、愛犬ランちゃんの可愛いしぐさに、入居者・職員の心が癒されているように思われた。重度の認知症の入居者も、職員の細やかな配慮が行き届き、安心した様子で穏やかに過ごされていた。母体の特別養護老人ホームと隣接し、行事やレクリエーションでの交流、栄養管理へのアドバイス、合同の職員研修など支援体制が整っており、ケアの質の向上が図られている。多様な資格を有する職員の特技を活かし、また、それぞれの意見をケアに反映させる取り組みは、職員の意欲向上につながっており、今後更に上質なサービスの提供が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根ざしていけるよう、地域の人々には母体施設行事や交流会などで理念の説明をしている。また、朝礼で掲示している理念と、名介護者になれる五か条を全員で読みあげ、その日一日充実した利用者への提供が出来るようにしている。	理念は職員全体で検討して、作成。法人の理念やグループホームの使命を踏まえ、地域に根ざした暮らしと家庭的な雰囲気重視の内容となっている。昨年は認知症の勉強会を熱心に行い、理念と「名介護者になれる五ヶ条」を毎朝唱和して意識付けするなど、理念を日々の実践につなげていく取り組みが実施されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の区役などに参加し地域の方と話をしたり、母体施設での交流会に参加し、知り合いの方から声をかけてもらったり、当施設へも敬労の日に母体へ交流に来られた方々がお祝いの踊りに来てくださっている。	特養主催の春祭りやボランティアの集い、地域行事のどんどこやに広場を提供する等、法人全体で地域交流を積極的に図っている。毎年、公民館の敬老会で職員が踊りを披露するなど、温かい交流の場となっているが、昨年はインフルエンザ流行のため、職員のみ参加にとどめた。幼稚園児の訪問、大学生の実習、小学生のワークキャンプなどにホームを開放し、地域とのふれ合いの機会が作られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	各老人会の方々の見学や大学からの実習生の受け入れ等を行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、2ヶ月の活動状況報告を行い出席者からのご意見を今後のサービス向上に反映できるように努めている。	会議には市職員、地域包括支援センター、区長が参加。家族には毎回順番に参加を促し、ホームへの理解を深めてもらうと共に、全家族の意見を引き出す工夫が行われている。それぞれの立場から質問やアドバイスがあり、行事では区長の協力により、住民の参加が得られやすくなっている。	会議場所の工夫や、毎回異なった分野の専門家を招いての勉強会など、内容を検討中であり、更に充実した会議となることが期待できる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者の方と顔なじみとなり、当事業所で抱えている問題や実情について気がねなく話せ、助言やご指導を頂く関係作りを行なっている。	市担当者や地域包括支援センターと親しく行き来し、情報交換を行っている。地域の介護困難事例等、相談し合う関係が築かれており、空きベッドが生じた時は短期で受け入れるなど、互いに協力し合い、地域支援を実施している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を中心として施設内研修会を開催し、身体拘束について学んでいる。また、対応方法を検討しながら身体拘束をしないケアが出来ている。	法人全体で虐待・身体拘束防止委員会を設置。外部講師を招いての研修や、国保連から出された苦情事例を題材にした検討会等、職員教育を熱心に行い、拘束しないケアに取り組んでいる。転倒防止には、居室に音をキャッチするセンサーを備え、さりげなく見守るようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より入居者の対応について職員同士が情報交換し、お互いに注意し合いながら、接し方や言葉遣いに気をつけている。また、外部研修や施設内研修会に参加し、高齢者虐待について学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全員の権利擁護に関する制度の理解には欠けている。研修などに参加し少しは理解できている職員もいる。現在、対象者はいないため、支援が必要になった時対応が出来ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族に対して契約書、重要事項説明書の付加説明を行い、疑問点がある場合は尋ねていただいている。また、解約時も御意見を伺いながら対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見は家族会などで出てきますが、不満・苦情については話づらいのか声が気かれません。意向調査を行い職員の資質の向上を図る上で、何でも書いて頂くように家族会などで伝えている。	運営推進会議への全家族参加を促す工夫や、訪問時の聴き取り、アンケート調査など、意見を引き出す努力が行われている。家族連絡の重複など、些細な不満も気軽に話してもらえるようになり、即改善が行われている。昨年末、家族へのアンケート調査を実施し、今後、全職員で検討していく方針であることが確認できた。	要望には速やかな対応が見られており、今後の更なるサービスの向上が期待できる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日、朝礼で改善点などの意見を聞き、必要な要件はすぐに実行に移し反映させている。毎月の部門会議では、それぞれの意見を聞き、良いところを伸ばす声かけをし、協力体制を作るようにしている。	法人の全職員が参加する全体会議では、経営や運営状況が開示され、個々の職員に運営参画が意識づけられている。職員一人ひとりの個性を伸ばし、意見を尊重する管理者の指導によって、ホームには何でも全員で話し合っていく雰囲気を感じられた。今年度は勤務態勢を見直し、3交代制を導入。職員の夜勤負担の軽減が図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けての配慮や、職員が長く仕事が出来るように、お互いの勤務希望を出して希望に沿うように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の勉強会、母体である施設全体の施設内研修会、必要に応じて施設外研修にも職員交代で参加させている。業務中においても疑問に感じる事は、カンファレンス時に尋ねてもらい皆で勉強している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などに参加した時に、施設間の情報交換を行なっている。入居者の体調に合わせて、地域の施設との交流を図っている。さくらの花見、ツツジの花見などに当施設へ来ていただくように声かけをしている。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設の見学など行っており、困っている事やご本人の希望や状態をお聞きし、入居された時に安心してサービスを提供できるような体制を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前訪問や入居前にあたり、電話だけの相談に限らず施設を見学していただき、環境や職員の対応、入居されている方の状態などを実際に見ていただき質問に答えている。またご家族の不安や困っている事をお聞きし、対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、ケアマネジャーや他の施設、包括支援センターなどに相談したり、内容に応じたサービスを提供できるところを検討できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一つ屋根の下で、一緒に暮らす仲間意識を持って頂き、入居者の訴えを傾聴し、不安を抱いておられるような時は、マンツーマンで対応するなど、笑顔、笑いのある暮らしが送れるように声掛け支えあう関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一緒に暮らしたくとも出来ない家族の状況を察し以前の暮らしが維持できるように、家族と話ができて、ふるさと訪問として自宅へ帰って1日過ごしていただくような企画も行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃のコミュニケーションの中で、ご家族から聞いている状況を話題にしたり、ご家族の話をお聞かせしてもらったり、面会時には日頃の状況をご家族に報告し、より良い関係が保てるように支援している。	気候の良い時期には、ふるさと訪問を実施。職員が自宅まで送迎して、家族とゆっくり過ごす時間が作られている。独居の人には職員が付き添い、自宅でのひとときを楽しんでもらっている。近所の人と出会い、話が弾むなど、良い効果が得られている。隣接の特養・デイサービスの利用者とも、毎月の交流会で顔なじみの関係ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中、入居者同士がお互いに話が弾む話題を提供したり、一つのテーブルを囲み輪を小さくする事で会話が弾むように位置関係の工夫に努めている。なじみの関係になっても、トラブルが発生するような時は早目の対応をし、話し相手のいないような時は、職員が声掛けして孤独感を感じさせないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されて場合は、お見舞いに行ったりご家族からの相談があった場合は、相談に応じるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人が確認できない場合、ご家族に情報を頂き確認できる方については、日頃接する中で話を聴き、意向を聞いたりして把握に努めている。	家族とのコミュニケーションを深め、入居者のこれまでの生活状況を聴き取り、ケアに活用している。また、日々の関わりの中で、一人ひとりの個性を理解し、情報は職員間で共有するようにしている。「なぜ、どうして」を考えるケアに努め、表情や動作などの些細な変化から、入居者の思いを察知している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、ケアマネージャー等により情報を得て、生活歴など把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々関わる中で、心身状態の把握は申し送りで、または本人ができそうなこと、レベルが低下してきたことなどカンファレンスの中で情報交換し把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時、ご家族の意見や希望を聞き、記録や日頃の情報交換を行い改善点は取り入れ、快適な生活をして頂く。また、期間に応じて見直しを行なっているが、変化があり、入院後の退院時など見直しが必要になった場合はご本人、ご家族よりの要望を反映して新しい計画を立てている。	毎日の経過記録に適切な記載ができるよう、職員教育を進め、記録をモニタリングに活用している。カンファレンスでは職員の意見やアイデアが活発に出されており、全職員で検討し介護計画を作成している。家族アンケートでも、全員が「計画について説明を受け話し合った」と回答しており、家族・職員の意見を反映した計画であることが伺える。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各勤務の交代時の引継ぎは記録のみでなく、口頭で申し送りを行なっている。日々の暮らしの様子は時間を追って日々の記録を残している。また、介護計画書の内容は時々考察を個人記録の中に記入している。カンファレンスの中で情報を共有し介護計画書の見直しにも活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員とご家族で本人を支える上では、家族の協力をお願いしたり、病院受診については家族と協力して入居前の情報、日頃の状況を把握している者が説明できるように、希望時は状況に応じて柔軟な支援体制をとっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用として役所、消防、区長さん、他のグループホームなどの意見交換やボランティアへの呼びかけを行なっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医や、事業所の協力医での医療が受けられるようにしている。ご家族や本人の状態によりお互いに協力し、必要時は往診して頂いている。	受診は、家族と相談しお互いに調整しながら付き添いを行っている。かかりつけ医には文書や電話で情報提供を行っている。緊急時には職員も同行。協力医とは、電話での指示受けや夜間の対応も可能など、連携関係が築かれている。	家族の状況によっては、受診の付き添いが大きな負担となっている場合があることから、個別の話し合いや対応など、再検討されることを期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を2名配置している。健康管理、観察は常に行い、異常の早期発見に努め、情報は共有し不在時は医療連携体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、医療機関への情報提供を十分に行っている。入院中の状態確認は、見舞いに行ったり、病院関係者に伺い、ご家族に都度報告を行い、早期の退院になるようアプローチしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末は施設の看取りを希望されているか確認し、終末期に対するケアの方針をご家族やご本人に説明し確信し同意を得ている。終末期の看取りは家族に付き添っていただくようにし、状態変化があった場合は、再度意向の確認を行い、かかりつけ医と協力し支援し、ターミナルケアが行えるようかかりつけ医と相談した取り組みを行なっている。	終末期のあり方について、家族会等でホームの方針を説明し、家族への意識付けを行っている。かかりつけ医との協力体制を整え、点滴などの医療行為は、母体特養の看護師の協力を得られるようにしている。ほとんどの家族はホームでの看取りを希望しており、本人の状態に応じて家族との話し合いを重ね、最善の支援を行っていく方針である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年施設での研修会に救急蘇生法を取り入れており、応急手当普及員研修に参加し、参加した職員が全職員に看護師と共に指導し、周知させている。また必要に応じ対応の仕方も確認しあっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	当事業所では、年1回の消防訓練を行っている。また、母体で年3回ある訓練にも参加、消防署の方より指導していただいている。3回のうち1回は地域の消防団の方も参加されている。また各訓練時、消防設備の使用の仕方の指導もあっている。	年1回の避難訓練は、入居者も参加して本番さながらの訓練が実施されている。各居室のドアに飾られた造花を、誘導時に外し、避難の有無を確認できるようにするなどの工夫が見られた。母体特養との合同訓練では、呼集訓練や、消防署の指導による放水訓練、消火器の使用訓練等が行われており、災害対策に対する高い意識が感じ取れた。	
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にかかげている個人の尊厳を大切に、毎朝理念を職員で読みあげ意識の向上を図り、個人情報保護を職員に徹底している。	勉強会や日々の業務の中で、入居者を尊重する意識づけが行われている。職員は、相手の思いを大切に言葉使いや対応を心がけており、温かみのある声かけや、入居者のペースに合わせた介助の様子が見られた。	トイレ介助時のドアの開放について、プライバシーの観点から検討されることが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を表していただける選択肢を用意し、自己決定を大切に、したくないことは無理強いしないようにしている。自己決定については、イエスノーで答えられるように援助し、更に表情で捉えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れに沿って生活リズムをつけながら、一人ひとりのペースに合わせ、精神的な面や体調を考慮して支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや化粧、マニキュアなど週間予定の中に組み込み、おしゃれをして頂くように職員が支援している。美容理容は、入居者の希望があったとき、ご家族に相談許可を得て、美容師の資格を持った職員がカットしたり、ご家族が来所してカットされてりしている。希望の中では、美容院に行きたいとの意見はない状況であるが、希望があればお連れする体制は整っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食堂と台所が対面式になっており、食事の香りや音を感じていただき職員と入居者が対話しながら準備が出来るようにしている。また食材の切り込みや下準備は、出来る事をお願いして手伝っていただいている。片付けは茶碗拭きなど日課としてされている。	懐かしいメロディが流れ、時折楽しい会話が交わされながらの食事風景が見られた。魚料理は形を崩さないまま食卓に出し、視覚で味わってもらった後、個々の能力に応じた介助が行われていた。体が右側に傾き、誤嚥の恐れがある人には、病院の理学療法士の助言を基に、左側から介助し、意識を左に向け傾きを防ぐなど、介助方法にも工夫が見られた。デッキでの食事会や誕生会、行事食など、食事を楽しんでもらえるよう努力されていることが伺えた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は1週間分の献立を作成し栄養バランスを考え皆で検討、母体の管理栄養士に目を通してもらいアドバイスを頂いている。水分摂取の少ない方には、好きなみかんなど摂取していただき不足しないように申し送りを行なって支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行なっている。自分で出来る方は自室にて行なわれ、自分で出来ない方は介助して行っている。誤嚥される方はイソジン液を使用し、口腔清拭を行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は、記録の中から排泄パターンを掴み、一人ひとりトイレの誘導に努めている。タイミングが合わず失敗される事がある為、さりげなく誘導し介助している。	通常の排泄パターンに沿った誘導だけでなく、その日の状態に合わせて、声かけのタイミングを微調整するなど、熱心な取り組みが行われている。夜間は眠りを妨げないようオムツを使用する人もいるが、ほとんどの入居者は、リハビリパンツや尿撮りパッドで対応できており、自立に向けた支援の成果と感じられた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を使用したり、ヨーグルトなど乳製品を取り入れている。又体操や散歩または腹部マッサージなどを行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には毎日の入浴、希望に沿った入浴時間を実施している。本人の希望や体調に合わせて時間をずらしたり、ゆっくりしていただけるように支援している。また、体調不良により入浴できない方は、看護師の指示で清拭や衣類交換で対応している。	入居者の希望に沿った入浴支援が実施されている。菖蒲湯等で季節を感じてもらったり、毎日入浴剤を使用し、ゆったりと楽しんでもらえるように配慮されている。入浴を拒否する人にはタイミングや声かけを工夫、相性の良い職員が介助するなどの努力の結果、現在、嫌がる人はほとんど見られなくなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢の為、日中ウトウトされる方は、ソファでゆっくりしていただいたり、30分ほど気持ちよく昼寝をしていただいている。ただ、昼夜逆転傾向がうかがえる方に対しては、夜間熟睡されるように声掛けし居眠りされないようにしている。生活リズムが整い次第では昼寝も考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、入居者の内服内容については理解しており、変更があった場合は、その都度伝達し誤薬のない様に名前を書いて個別の仕切りに付いたトレーに入れている。変更事項などは個人連絡ファイルに情報として綴じていつでも見直せるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の出来る役割を見極め、食事の下準備、後始末、洗濯物たたみ化粧及びレクリエーションとして日々個人でできることを職員が担当についてして頂いている。皆で歌を唄ったり、ゲームをしたり、散歩、買物など楽しんでいただけるよう支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ウッドデッキに出て日光浴をしたり、建物前のふれあい広場には遊歩道がありまわりに桜やツツジなどの花が咲く為、季節を感じていただけるよう希望があるときは、遊歩道を散歩したりできるように支援している。また、月2回の外出活動を計画し、地域へ出向いている。また、自宅へ外出されるようふるさと訪問を家族に働きかけている。	四季折々の花見やふるさと訪問等、年間行事に組み入れて外出支援が行われている。また、自然豊かな広場を散歩したり、買い物に出かけたりと日常的な外出の機会も多い。外出を好まない人には、デッキでの外気浴や広場での昼食会など、戸外に出るよう働きかけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金管理が出来ない方がほとんどで、ご家族の希望でお預かりしている。外出時、自分で支払い出来る方は、自分で払っていただけるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が自宅へ電話指定と希望される時は電話発信しとりついたり、かかってきた電話は本人へ取り次いでいる。手紙が届いた時は代読したり自由に出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは季節感を開感していただけるように季節の花や、果物を置いて話が弾むようにしたり、あるいは壁面などに工夫し今を感じていただくような空間にしている。	程良い広さのリビングには柔らかい光が入り、窓から樹木が眺められ、開放感がある。壁面の飾り付けは、リハビリを兼ねたレクリエーションで、毎月の行事に合わせて入居者と共に作成。幼稚なものにならないようにと工夫し、格調あるデザインになっている。BGMの音量が心地よく、職員の動きもゆっくりとして、穏やかな安らぎのある空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下、玄関ポーチ、ウッドデッキには椅子やテーブルを設置し、気軽に外の空気に触れたり。一人になりたい時は廊下の椅子で広場を眺めて過ごされるようにしている。ウッドデッキでは、夕涼み・月見など季節感を味わっていただく催しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真などを飾ったり、レクリエーションで作られた作品を飾っておられる。馴染みの道具を置いて読書など出来るようにしている。	カーテンと壁紙の色・デザインは、居室毎に異なり、それぞれにその人らしい雰囲気の部屋になっている。ドア横のネームプレートと造花も、一人ひとり違わせ、目印にしている。室内には写真や、本人手作りの作品、家族持ち込みの家具等が置かれ、居心地良い部屋作りが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路になるところは、歩行の支障になる物は極力除去し、入居者に応じ、椅子から手すりに移動しやすい配置を考えている。各部屋の壁やカーテンの色を変えており、入口には表札、トイレの表示をし、混乱されないようにしている。		